

手作りフラワーボックスで華やかに

1月19日、野尻町保健福祉センターでかわいいハンドメイド講座が開かれました。「作る楽しさを知ってもらいたい」と話す講師の久保脇かずみさん指導のもと、受講生はフラワーボックスを制作。色の配置などに悩みながらも個性豊かな作品を完成させていました。



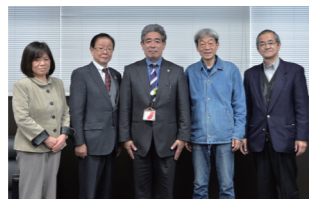
ライオンズクラブ新入生用カバー寄贈

1月23日、小林ライオンズクラブ（青木浩朗会長）が新入生用のランドセルカバー約400枚を寄贈しました。青木会長は「子どもたちが安全に登下校できることを願い、贈ります」と想いを述べました。カバーは市内全小学校の新1年生に配布されます。



市民の歌作曲家小林明さんが表敬訪問

1月24日、小林市民の歌作曲家の小林明さん（68歳）が市長を表敬訪問しました。市民の歌は、須木村・野尻町との合併後、一体感の醸成などを目的に平成24年に制定。小林さんは「歌い続けてもらい大変ありがたい。一生の名誉になる。」と話していました。



交通死亡事故ゼロ240日を達成

1月31日、交通死亡事故ゼロの日数が県の基準である240日を1月23日に達成したとして、県知事から表彰を受けました。市内では交通事故の約7割が「脇見等」、7時、11時、18時に事故が多く発生しています。ゆとりを持ち、安全運転を心がけましょう。



全ての人自分らしく暮らすために地域の権利擁護の啓発イベント開催



中核機関つなごは令和3年に設立。高齢者や認知症、障がいがある人やその家族などの支援が必要な人と、支援制度をつなぐ活動を行っています

1月27日、権利擁護の推進のための啓発イベント（中核機関つなご主催）が文化会館で開催されました。イベントは、中核機関の役割や成年後見制度について知り、身近に感じてもらうと開かれたもの。福島健太弁護士による地域の権利擁護に関する基調講演や、高齢者支援や障がい者支援に取り組む団体の実践報告などが行われました。



演奏会を聞いた西唯歩さん（6年）は「毎朝流れる市民の歌を演奏している人たちと聞き楽しみにしていた。生で聞くと迫力が凄かった」と話しました

京フィルが小林小で演奏会を実施 クラシック名曲などに聞き入る

1月25日、小林小学校で京都フィルハーモニー室内合奏団演奏会が行われました。これはコロナ禍で減少した文化芸術にふれる機会をつくらうと、同校が文化庁の事業を活用し実施されたもの。演奏会ではクラシックの名曲が演奏されたほか、校歌や小林市民の歌をオーケストラの伴奏で児童が歌うなど、一流の音楽を楽しみました。

親子で健康に関する情報にふれるこば小けんこうフェア開催

1月18日、小林小学校で健康づくりについて学ぶ体験型イベント「こば小けんこうフェア」が開催されました。コロナ禍で健康の大切さが改めて見直される中、親子体験型イベントであれば、より健康づくりへの関心が高まるのではないかと期待し同校が企画。当日は児童とその保護者約40組が参加し、楽しみながら学びました。



会場では歯科衛生士による歯磨き指導や、理学療法士によるストレッチ、薬剤師による手洗い指導などの7つのブースを親子が一緒に巡りました

「この地域で暮らし続けるために」三松地区でワークショップ開催



ワークショップは県の支援事業を受けて開催。今後もそれぞれの部会に分かれて話し合いを続け、アイデアの実現を目指します

昨年10月から今年1月にかけて、チームみまつ協働体が地域の未来について考えるワークショップを開催しました。住み慣れた地域に住み続けるために、住民同士で課題の共有や解決策を話し合うもので、1月26日の第3回には約20人が参加。1・2回目が出た取り組みのアイデアを実行するための体制づくりなどについて話し合いました。



当日は小林・えびの・高原から約40人の高齢者が体験会に参加し、パズルゲーム「ぶよぶよeスポーツ」を実際にプレイしていました

高齢者の認知症予防などに期待 eスポーツなどの体験イベント開催

1月23日、市中央公民館でeスポーツを体験できるイベントが開催されました。eスポーツとはパズルゲームやレーシングといった対戦競技を、インターネットなどを活用し電子上で行うもの。頭や指先などを使う競技種目が多いことから、高齢者の認知症予防などの効果を期待して県老人クラブ連合会が主体となって開催しました。

3月の開花時期を迎えるためにエヒメアヤメ自生地野焼き実施

1月21日、国指定の天然記念物「エヒメアヤメ自生南限地帯」で恒例の野焼きが行われました。これはエヒメアヤメの生育を促すため平成26年から実施しているもので、今年で10回目。当日は「エヒメアヤメを守り育てる会」（大藪良一会長）の会員や消防団員ら約60人が自生地を覆うスキなどの枯れ草に火を入れました。



エヒメアヤメは寒冷な気候で育つ大陸系の植物で、日本列島が大陸と繋がっていたころの名残といわれている植物。例年3月下旬から4月上旬に開花します

伝統衣装を羽織り民謡などを演奏 須木地区で沖縄三線講座を開催



沖縄三線講座は毎月1回を目安に、須木総合ふるさとセンターで開講しています。詳しくは教育部須木分室（Tel. 48-2266）に問い合わせください

2月7日、須木総合ふるさとセンターで沖縄三線講座が開催されました。講師の中園より子さんが弾き語りを披露したほか、中園さんの指導を受けた参加者が琉装とよばれる沖縄の伝統衣装を羽織り、流れるような柔らかい音色を奏でました。参加した前畑志美子さんは「今後も練習を重ねて色々な曲を弾けるようになりたい」と話していました。

県内各地の民謡を記録した曲集を 森永高志会が市内小中学校に寄贈

2月14日、元日本銀行総裁で名誉市民の森永貞一郎氏を顕彰する（一社）森永高志会（森山貴弘理事長）が、「復刻・宮崎民謡101曲集」を市内小中学校へ寄贈しました。曲集は、音楽家園山民平氏が行った調査を元に昭和32年に発行された「日向民謡101曲集」を、同会が令和3年に復刻。県内の民謡が歌詞と楽譜付きで紹介されています。



園山氏は昭和23年～29年に録音機を背負い県内各地を調査。曲集には、西諸地域で祝いの席などで歌われてきた馬子唄（嫁取唄）も収録されています

KIZUNAの取り組みを振り返る 地域日本語教育フォーラムを開催

2月4日、小林市地域日本語フォーラムが行われました。令和元年度から文化庁の事業を活用して実施する地域日本語教室 KIZUNA の取り組みを振り返るもので、オンラインも含め県内外の約30人が参加。アドバイザーを務める平高史也愛知大学特任教授の基調講演や、教室に参加した高校生・市民サポーターの事例報告などが行われました。



平高教授は「多文化共生は外国人受け入れということだけでなく、日本人が日本にいながら自分を海外に開いていくチャンスになる」と話していました

3年ぶり開催の南九州駅伝大会 小林高校が2連覇を果たす



1・2年生中心で大会に臨んだ小林高校は、2区から上位争いを演じ、4区から首位をキープ。そのまま逃げ切る安定した走りを見せました

2月5日、えびの市から都城市まで7区間61.3キロを競う第77回南九州駅伝競走大会が開催されました。九州を中心に全国各地から社会人、大学生、高校生など36チームが出場。コロナ禍の影響で3年ぶりの開催となった今大会では、小林高校が3時間7分38秒で頂点に立ち、大会2連覇を果たしました。

優れた作文や標語、他の模範となる 善行青少年に選ばれた児童生徒を表彰

2月3日、「家族の作文」「青少年健全育成標語」「善行青少年」合同表彰式が行われました。家族の作文へは小中学生から1384人の応募があり、最優秀賞9人に賞状を授与。育成標語へは小中学生・一般の395人の応募があり、最優秀賞3人、育成市民会議会長賞3人に賞状が授与されました。また、善行青少年として2人が表彰されました。



「家族の作文」は16年目、「育成標語」は12年目を迎えました。「善行青少年」表彰は、学校や地域で模範となる優れた活動を行った青少年を表彰するものです

人権擁護委員に2人が委嘱

1月1日、人権擁護委員に、牟田昭三さん（写真㊤）、永井良雄さん（写真㊦）が委嘱されました。毎月「人権・行政・なやみごと相談」を開催していますので、お気軽にご相談ください。相談日は毎月広報こばやしのくらしのカレンダーに掲載しています。



小林総合運動公園の複合遊具がリニューアルしました！

2月15日、老朽化により更新工事を行っていた小林総合運動公園中央広場の複合遊具が完成し、一般開放されました。新しい複合遊具のコンセプトは、「遊びをとおして心身の発達育成や自主性、創造性、社会性が身につく遊び場」。デザインには、市のシンボルである「コスモス」や「もみの木」、「ホテル」、「こすも〜」が取り入れられており、親しみやすい遊び場になりました。

東方小と県総合博物館が合同授業 オオヨドカワゴロモ保全活動を実施



活動に参加した4年生の堀之内海翔さんは「オオヨドカワゴロモは大切にしていけないといけないので、また活動に参加したい」と話していました

1月30日、東方小4年生17人が、世界で岩瀬川にのみに生息する絶滅危惧種「オオヨドカワゴロモ」の保全活動を行いました。同校が推進するSDGs教育の一環で行われたもの。児童は、県総合博物館の黒木秀一学芸課長から「オオヨドカワゴロモ」の特徴などについて説明を受けた後に現地に移動し、河川の清掃活動を行いました。

東京丸の内では農家民泊の魅力でPR

2月2日、ビジネスパーソンを対象としたキャリア講座「丸の内プラチナ大学」が東京丸の内で開催され、北きりしま田舎物語推進協議会の福本誠作会長や夏木政和さんが講師として登壇。講演や市産の食材を使った食事会を通じて、農家民泊をPRしました。

